

2019年5月16日
ぶぎん地域経済研究所
ちばぎん総合研究所

埼玉県・千葉県企業アンケート調査の比較分析（第6回）

「ぶぎん地域経済研究所」および「ちばぎん総合研究所」では、千葉・武蔵野アライアンス（注）の下で、埼玉県・千葉県の企業アンケートに、「19年度の国内景気見通し」、「従業員のベースアップ」について共通の調査項目を設定し、両県の比較分析を行った。

（注）16年3月に両行が締結した包括提携契約。

埼玉県アンケート：ぶぎん地域経済研究所

業種別・規模別回答企業数

（単位：社）

	合計	企業規模	
		100人以上	100人未満
全産業	196	93	103
製造業	112	52	60
紙加工品等	10	4	6
化学・プラスチック・ゴム製品	6	3	3
鉄鋼・非鉄金属	8	4	4
金属製品	9	5	4
その他素材型	11	1	10
一般機械器具	13	7	6
電気・情報通信機械器具	12	2	10
電子部品・デバイス	9	4	5
輸送用機械	10	8	2
精密機械	6	4	2
飲・食料品	8	4	4
印刷・同関連業	7	5	2
その他製造業	3	1	2
非製造業	84	41	43
一般建設	17	4	13
住宅建設	4	2	2
卸売	13	3	10
小売	21	14	7
運輸・倉庫	9	7	2
不動産	6	0	6
その他非製造業	14	11	3

調査要領

- 対象企業…埼玉県内に本社または事業所を有する企業
- 方法…郵送によるアンケート方式
- 実施時点
配布：2019年1月25日
回収：2019年2月22日
- 回答状況…調査対象企業 555社
有効回答数 196社
有効回答率 35.3%

（注）調査票の回収数は196だが、設問ごとで回答数が異なるため、各問での有効回答数（母数：n）は異なる。

（注1）従業員100人以上を「企業規模の大きい企業」に、従業員100人未満を「規模の小さい企業」とした。

（注2）その他素材型は、繊維・衣服・その他の繊維、木材・木製品・家具、窯業・土石の3業種。

千葉県アンケート：ちばぎん総合研究所
業種別・本社所在地別・規模別回答企業数

(単位：社)

	合計	本社所在地		企業規模	
		県内	県外	大企業	中小企業
全産業	227	203	24	87	140
製造業	123	108	15	31	92
食料品	23	18	5	8	15
石油・化学	13	9	4	6	7
プラスチック	10	9	1	1	9
窯業・土石	12	12	0	3	9
鉄鋼・非鉄金属	10	10	0	2	8
金属製品	16	12	4	3	13
一般・精密機械	10	10	0	2	8
電気機械	10	10	0	3	7
輸送用機械	8	8	0	2	6
その他製造	11	10	1	1	10
非製造業	104	95	9	56	48
建設	12	11	1	6	6
運輸・倉庫	13	13	0	3	10
卸売	19	16	3	10	9
小売	16	15	1	12	4
ホテル・旅館	10	8	2	4	6
サービス	34	32	2	21	13

調査要領	
1. 対象企業…	千葉県内に本社または事業所を有する企業
2. 方法…	郵送によるアンケート方式
3. 実施期間…	配付：2019年 3月1日 回収：2019年 4月11日
4. 回答状況…	調査対象企業 578社 内有効回答数 227社 有効回答率 39.3%

(注) 調査票の回収数は227だが、設問ごとで回答数が異なるため、各問での有効回答数(母数:n)は異なる。

注) 大企業、中小企業の区分は下記による。

大企業…資本金1億円以上。ただし、卸売業は5,000万円以上、小売業、ホテル・旅館業、サービス業は3,000万円以上とする。

中小企業…資本金1億円未満。ただし、卸売業は5,000万円未満、小売業、ホテル・旅館業、サービス業は3,000万円未満とする。

* (参考) 埼玉県と千葉県の比較

	単位	年次	全国	埼玉県	順位	千葉県	順位
事業所数	力所	2016	5,340,783	240,542	5	188,740	9
住宅着工	戸	2017	964,641	59,617	5	52,568	6
商店数	千店	2016	1,355	57	6	47	9
商品販売額	百億円	2015	58,163	1,835	7	1,351	9
製造品出荷額等	百億円	2017	31,725	1,342	6	1,208	8
延べ宿泊者	万人	2017	50,960	459	35	2,464	4

事業所数(2016年)

(単位:力所、%)

	埼玉県		千葉県	
	数	構成比	数	構成比
全産業(公務を除く)	240,542	-	188,740	-
農林漁業	576	0.2	1,001	0.5
鉱業, 採石業, 砂利採取業	33	0.0	60	0.0
建設業	25,762	10.7	19,912	10.5
製造業	26,691	11.1	11,082	5.9
電気・ガス・熱供給・水道業	132	0.1	131	0.1
情報通信業	1,684	0.7	1,457	0.8
運輸業, 郵便業	6,909	2.9	5,504	2.9
卸売業, 小売業	56,851	23.6	47,017	24.9
金融業, 保険業	3,049	1.3	2,821	1.5
不動産業, 物品賃貸業	16,584	6.9	12,233	6.5
学術研究, 専門・技術サービス業	8,573	3.6	6,831	3.6
宿泊業, 飲食サービス業	27,883	11.6	25,104	13.3
生活関連サービス業, 娯楽業	22,637	9.4	19,310	10.2
教育, 学習支援業	9,056	3.8	6,903	3.7
医療, 福祉	20,058	8.3	16,820	8.9
複合サービス事業	937	0.4	981	0.5
サービス業(他に分類されないもの)	13,127	5.5	11,573	6.1

(出所:経済センサス活動調査)

産業分類別 製造品出荷額等(2017年・従業員4名以上)

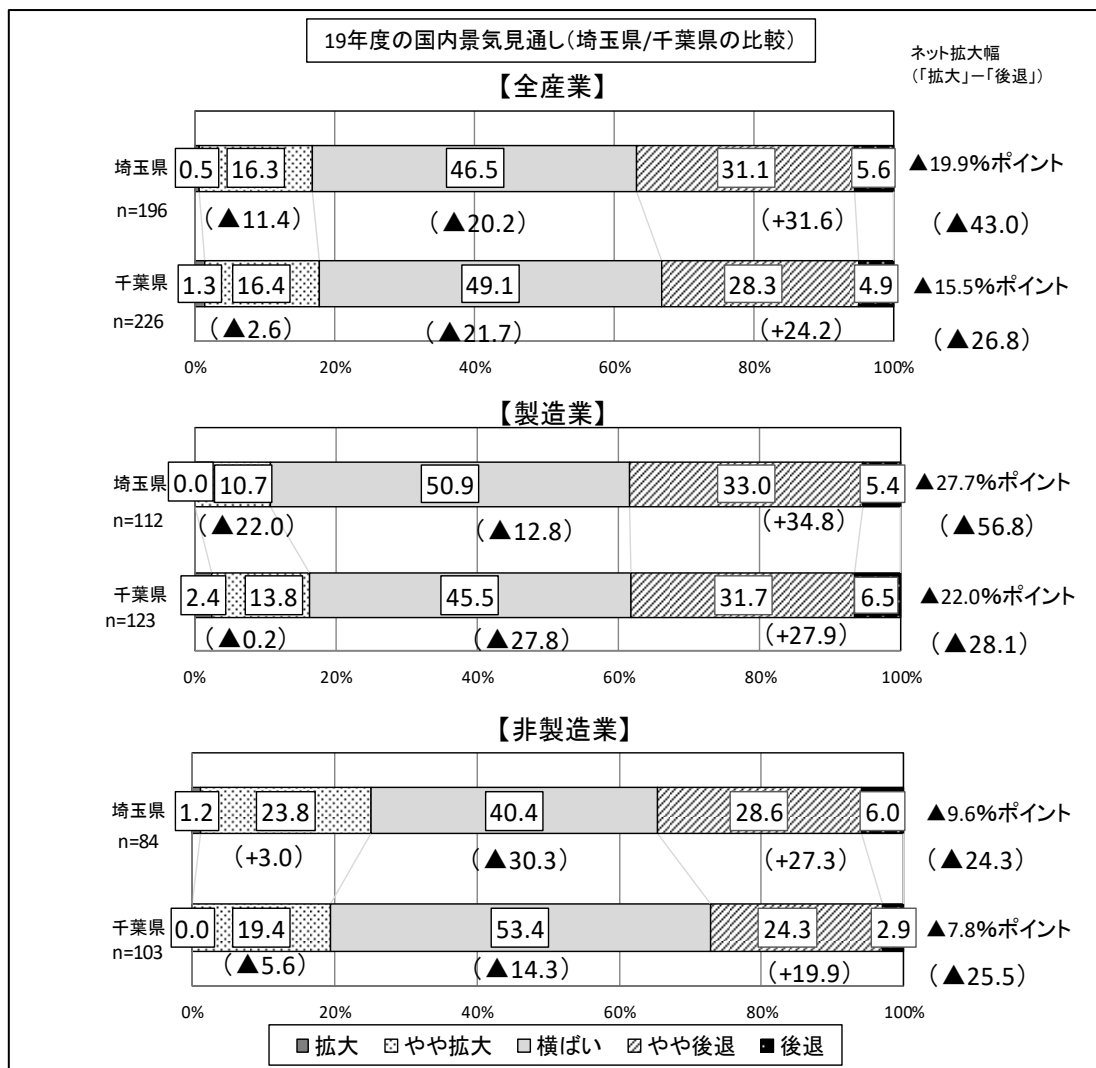
(単位:億円、%)

	埼玉県		千葉県	
	額	構成比	額	構成比
製造業合計	134,208	-	120,825	-
素材型	41,446	30.9	75,520	62.5
化学	16,838	12.5	23,195	19.2
石油製品・石炭	402	0.3	25,367	21.0
鉄鋼	3,348	2.5	16,744	13.9
プラスチック	6,661	5.0	2,949	2.4
窯業・土石・繊維	3,535	2.6	3,181	2.6
非鉄金属	5,974	4.5	2,826	2.3
パルプ・紙・紙加工品	4,687	3.5	1,258	1.0
加工型	58,803	43.8	22,057	18.3
輸送用機械器具	25,083	18.7	1,195	1.0
電気機械器具・情報通信	8,300	6.2	3,374	2.8
業務用機械器具	4,812	3.6	1,093	0.9
生産用機械器具	5,378	4.0	5,595	4.6
電子部品・デバイス・電子回路	3,712	2.8	2,129	1.8
はん用機械器具	4,244	3.2	2,349	1.9
金属製品	7,274	5.4	6,323	5.2
生活関連・その他	33,958	25.3	23,247	19.2
食料品	20,534	15.3	18,997	15.7
印刷・同関連業	7,286	5.4	1,004	0.8
その他(ゴム・家具等)	6,139	4.6	3,246	2.7

(出所:工業統計調査)

19年度の国内景気見通し

19年度の国内景気見通しは、両県とも「後退」が「拡大」を上回り（全産業）、前年調査に比べ、見方がより慎重となった。両県とも「拡大」先割合が低下し、「後退」先割合が上昇したが、その度合いは千葉県に比べて埼玉県の方が大きく、「拡大」社数構成比から「後退」社数構成比を引いた「ネット拡大幅」の前回調査比は、埼玉県の▲43.0%ポイントに対し、千葉県は▲26.8%ポイントとなった。前回調査比の差は、製造業の景気見通しの差によるもの。埼玉県の製造業は、千葉県に比べ、輸出の影響を受ける加工組立型業種のウエイトが高いことから、米中貿易摩擦による景気後退を懸念していることによるとみられる。

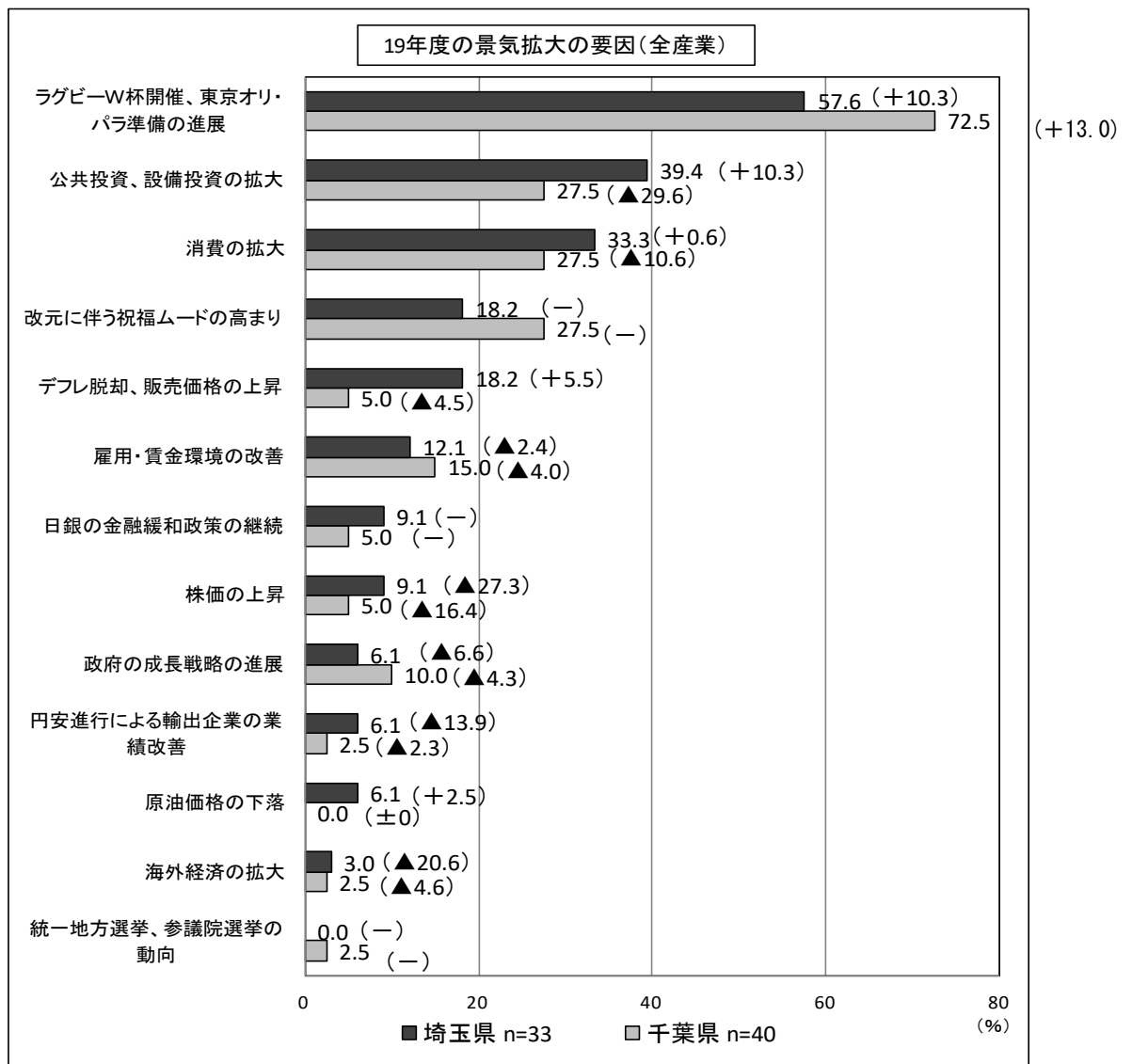


(注) () 内は各県の前回調査比、単位%ポイント。今回調査より、「やや拡大」「やや後退」を選択肢に加え、それぞれ「拡大」「後退」との合計を前回調査と比較している。

19年度の景気拡大の要因

景気拡大の要因は、両県とも「ラグビーワールドカップの開催、東京オリ・パラ準備の進展」が最も多い。これに次いで、ともに「公共投資、設備投資の拡大」、「消費の拡大」、「改元に伴う祝福ムードの高まり」を挙げる先が多くみられた。

前回調査との比較では、両県とも、「ラグビーワールドカップの開催、東京オリ・パラ準備の進展」への期待が高まった。減少した要因は、埼玉県では、「株価の上昇」、「海外経済の拡大」が、千葉県では、「公共投資、設備投資の拡大」が目立った。

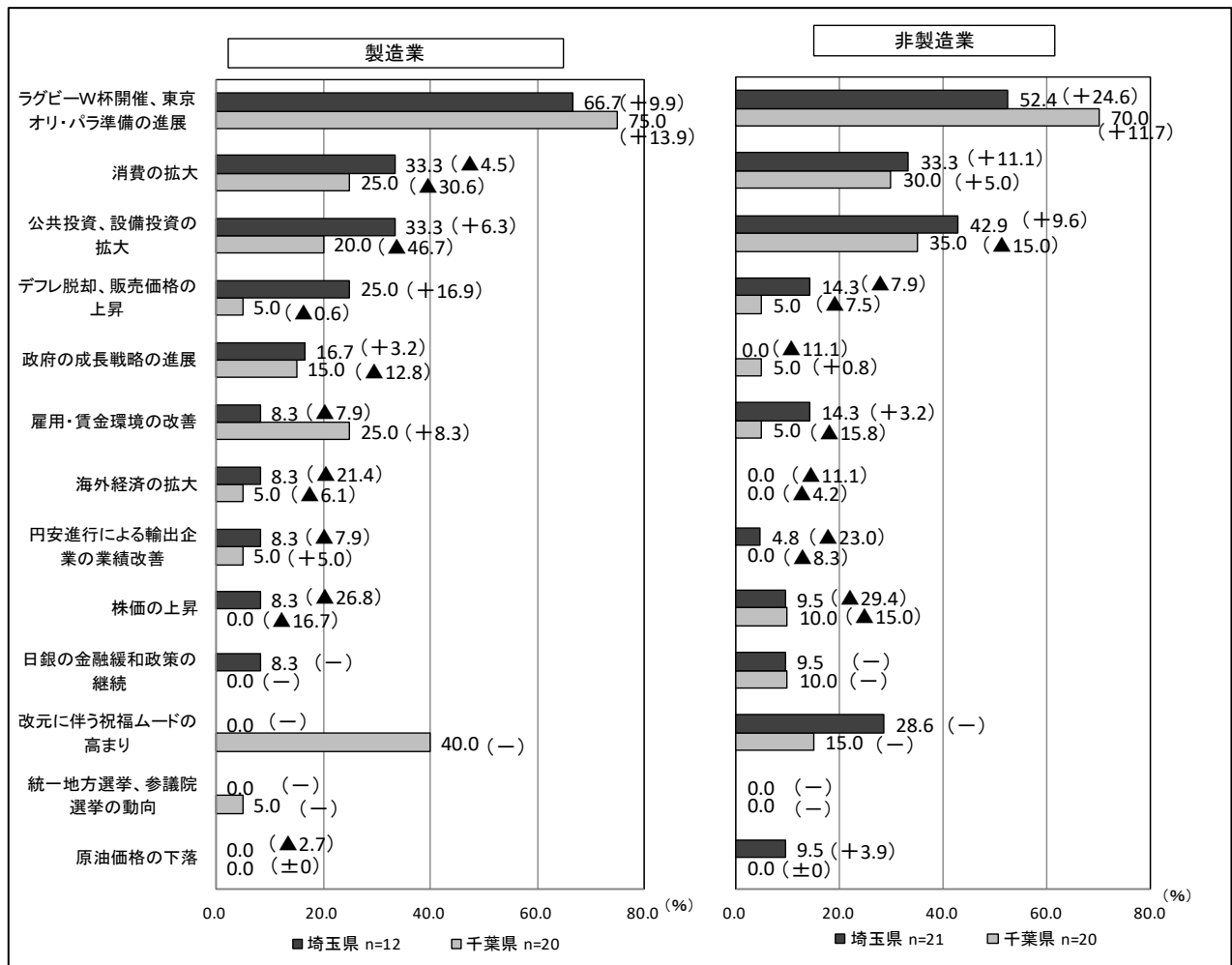


(注) () 内は各県の前回調査比、複数回答、単位%ポイント
 (-) は今回よりアンケート項目に追加

製造・非製造業別にみると、両県ともに、製造業・非製造業いずれも「ラグビーワールドカップの開催、東京オリ・パラ準備の進展」が最も多かった。

製造業では、埼玉県では、「消費の拡大」、「公共投資、設備投資の拡大」がこれに続くのに対し、千葉県では、「改元に伴う祝福ムードの高まり」が続いた。

非製造業では、両県ともに「公共投資、設備投資の拡大」が「ラグビーW杯開催、東京オリ・パラ準備の進展」に続いた。

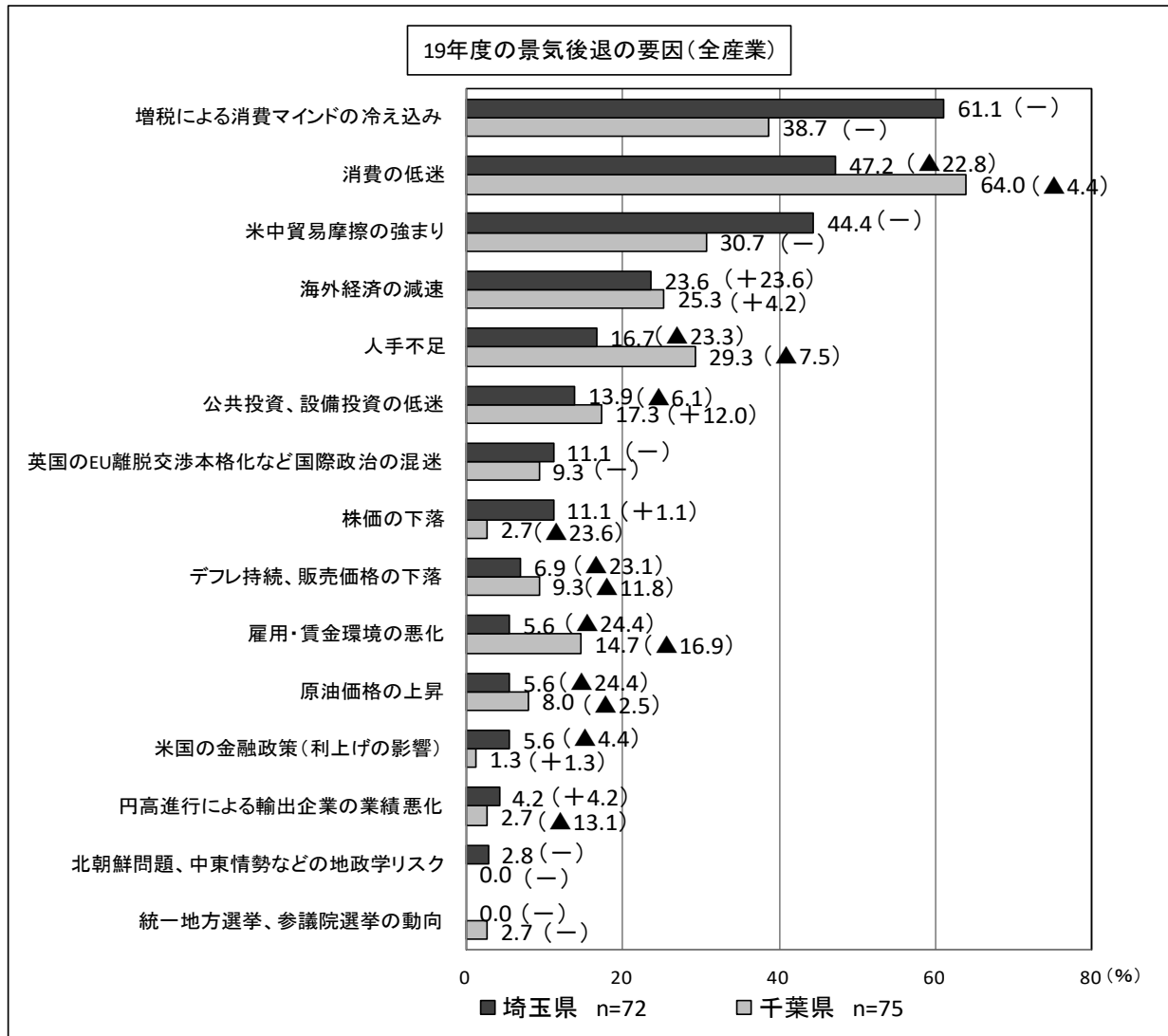


(注) () 内は各県の前回調査比、複数回答、単位%ポイント
 (-) は今回よりアンケート項目に追加

19年度の景気後退の要因

景気後退の要因は、両県ともに「増税による消費マインドの冷え込み」、「消費の低迷」を挙げる先が多く、両県とも「消費」が景気後退の要因となることで見方が一致している。

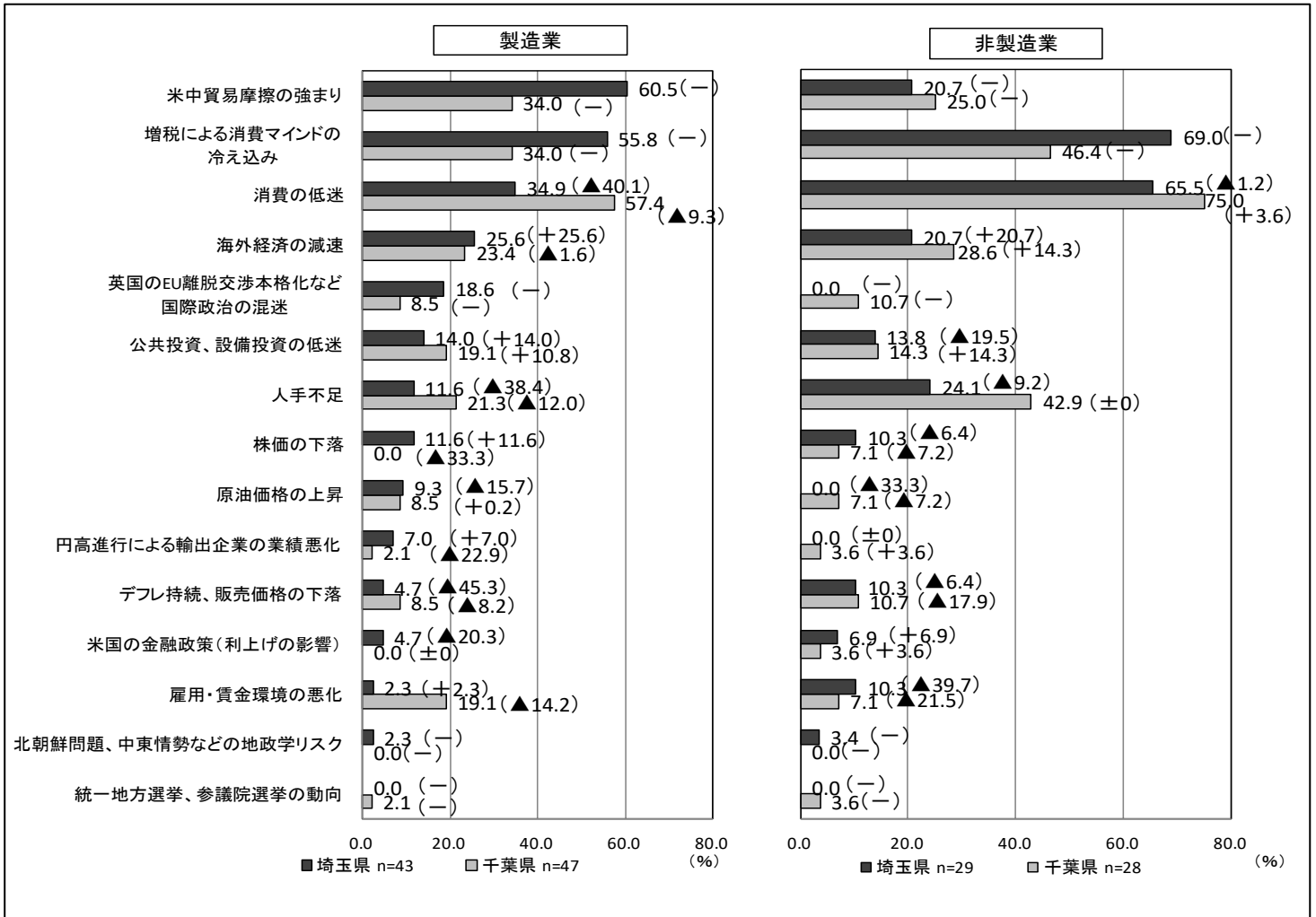
このほか、両県の比較のなかで、埼玉県では「米中貿易摩擦の強まり」を、千葉県では「人手不足」を挙げる先が多くみられた。



(注) () 内は各県の前回調査比、複数回答、単位%ポイント

(―) は今回よりアンケート項目に追加

製造・非製造業別では、両県ともに、製造業・非製造業いずれも「消費」を後退要因として挙げる先が多くみられた。かかるなか、製造業では、埼玉県において「米中貿易摩擦の強まり」を挙げる先が、非製造業では、千葉県において「人手不足」を挙げる先が目立った。



(注) () 内は各県の前回調査比、複数回答、単位%ポイント
 (-) は今回よりアンケート項目に追加

(ベースアップ実施状況)

19年度のベースアップ実施(予定を含む)企業の割合は、埼玉県では前年度実績を上回ったが、千葉県は下回った(全体)。

実施企業割合は、製造業、非製造業ともに埼玉県が千葉県を下回っている。

ベースアップ実施企業割合(定昇は含まない)

		埼玉県		千葉県	
全体 (%) (n=埼玉189 千葉220)		23.3		35.5	
	前年度 (前年度比)		21.3 (+2.0)		53.8 (▲18.4)
製造業 (n=埼玉108 千葉119)		24.1		37.8	
	前年度 (前年度比)		19.2 (+4.9)		54.9 (▲17.1)
非製造業 (n=埼玉81 千葉101)		22.3		32.7	
	前年度 (前年度比)		24.0 (▲1.7)		52.6 (▲19.9)

ベースアップ予定額(全産業)も、埼玉県では前年度実績を上回ったが、千葉県は下回った(全体)。

製造・非製造業別にみると、製造業では、埼玉県は前年度実績を上回ったが、千葉県は下回った。一方、非製造業では、千葉県が前年度実績を上回り、埼玉県は下回った。

賃上げ予定額(定昇は含まない)

		埼玉県		千葉県	
全体(1人当たり平均、円) (n=埼玉71 千葉50)		777		2,311	
	前年度 (前年度比)		742 (+35)		2,447 (▲136)
製造業 (n=埼玉45 千葉32)		1,022		2,018	
	前年度 (前年度比)		940 (+82)		2,264 (▲246)
非製造業 (n=埼玉26 千葉18)		558		4,276	
	前年度 (前年度比)		559 (▲1)		3,199 (+1,077)

以 上